

[発行] レイカディア大学同窓会大津支部

<http://lacadia-dousoukai.com/>

目次

2

存在の意味を求めて
(小野副支部長)

4

平成28年度
レイカ大津の集い報告

7

生涯学習フェスティバルに参加
神戸ひまわり号のボランティア
本部主催地域活動事例発表会など

10

新入会員投稿

22

わが町の歴史(瀬田)

15

部会だより
健康部・文化部
研修部・地域活動部

24

会員投稿 エッセイ・俳句・川柳

28

会員動向・編集後記



37期新入会員の方々の紹介

主な行事

➤ 新年会のご案内

日時: 2月6日(月) 12時~14時30分

場所: 元祖・船の館 びわこの干松

*詳しくは3頁参照

➤ レイカディア大学必修講座聴講

日時: 1月27日(金) 10時~12時

場所: レイカディア大学草津校 大教室

*人数制限有り、12月31日(土)申込み締切り。詳しくは14頁参照

存在の意味を求めて

副支部長(中央地域担当) 小野 英明(31 期 スポレク・皇子山)

同窓諸賢もいよいよ人生の集大成を総括するべき時期に差ししかかっていることは疑いがない。自己の人生を振り返り、どのように評価すべきか、日々ほろ苦い感慨にふけっている人も多いかと思う。残り時間が少なくなればなるほど、貴重な時間を有意義に過ごす焦りを感じるからである。

人は生まれてくる時代の制約を受けざるを得ない。団塊の世代は高度成長期に青春時代を過ごし、一億総星雲の志を抱いて燃えていた。貧しくとも幸せな時代であった。父母の時代には大東亜戦争という未曾有の国難混乱を経験した。当然私の父も赤紙により、海軍の一兵士として南洋方面に従軍し、辛酸を舐め、息も絶え絶えに帰還した。銃後の母の苦労も一通りではなかった。祖父母は息子たち全員を万歳三唱で兵隊に送り出したものの、日夜息子たちの無事を祈る生活は悲しかったに違いない。具体的生き様の判明している江戸時代以降の我が一族の生活を偲ぶ時、それぞれの時代の荒波を受けつつ、必死に生きてきた様子がよくわかる。

「ルーツ」という、アメリカ黒人が先祖を探す旅の小説がベストセラーになったことがある。先祖は中央アフリカから奴隷として売られてきた「クンタ・キンテ」という名の精悍な青年であった。幾星霜を経て作者に至っているわけである。アメリカ黒人の先祖はアフリカから拉致された奴隷から始まっている。反抗心絶望をただ耐え、すべてを音楽に昇華しているからこそブルースは魂を揺さぶるのだ。北斗真剣の究極奥義「無双転生」は、究極の悲しみを識る者にのみ使いこなせる技という。

現代日本は人類史上稀にみる幸福な社会であろう。歴史好きの私にとって歴史上、仇花のように奇跡的に出現したユートピアが現代日本である。それほど人類史は苦難の連続であった。どの地に生まれるかは本人のあずかり知らぬことである。現代においてさえも、シリアに生まれていたらどうだろう。ビルマの少数民族に生まれていたらどうだろう。南スーダンに生まれていたらどうだろう。日本に生まれただけで無条件に感謝すべきであろう。

地理的時代的制約は個々人に大きくのしかかっている。しかし、社会の幸福の総量は、地理的時代的枠を超えて常に概ね一定であるということも事実である。常にその生存場所において楽しみがあり夢があり笑いがあつた。団塊世代の子供時代は今よりもはるかに貧しかったが、父母も私も今より不幸だったということはない。むしろ我が一族にとって最も幸せな時代でもあつた。貧しくとも夢があつた。生命が本能のままに輝いていた。常に笑いに満ちていた。父母も若かつた。子供たちは元気だつた。父母は、知的・財的能力の範囲で可能な限りの子育てを、私たちに授けてくれたことだけは疑いがない。父母の愛情を信じ切れる人生は、つまるところ最も幸せな人生であることに長じてから気づいた。人間を信じ、人間を肯定できる生き方の根源を与えてくれたからである。

人はどのように人生を締めくくるべきなのだろうか。最近たぶんこの方向が正解ではなかろうかと信じ始めていることがある。生きるとは生命を働かせることである。生老病死の渦中において、ひたすら信じる事象に精魂を傾けるのである。棋士は死の間際まで新手を考え抜く。米作りの農家は死の間際まで黄金色の稲穂を夢見る。投資家は認知症になるまで株価を予想する。政治家は死ぬ間際まで国家の未来を案じる。庶民は死ぬ間際まで孫の幸せを祈る。内容は百人百様に、ひたすら老いという肉体的制約に苦悶しつつ生命の炎を燃やし続けるのである。自らの死の瞬間を知る人は誰もいない。それでも確実にその時はやってくる。それなら自らの使命を自覚しあるいは決心し、生命を燃やし続ける人生が最も有意味ではなかろうか。そして命の炎が消えてゆく。未だ生を知らず、ましてや死など知る由もない。深刻に考える必要性もないということであろうか。大道悠々大河滔々。

第 12 回 新年会のご案内

新年会実行委員会

恒例となりましたレイカディア大学同窓会大津支部の新年会を下記内容で行いますのでお誘いあわせの上、奮ってご参加下さい。今年は近江大橋東詰めにあります「びわこの千松」で開催します。

記

日時 平成 29 年 2 月 6 日 (月) 12 時～14 時 30 分
受付開始 11 時 30 分～

場所 元祖・船の館 びわこの千松
〒525-0067 草津市新浜町 297-1 TEL : 077-565-8800

送迎バス JR 大津京駅 11 時 15 分出発
JR 石山駅北口 11 時 15 分出発
(両駅とも 11 時に現地にて実行委員がお待ちしています)

会費等 5,000 円 (当日受付にて申し受けます)
申込み締切日 平成 29 年 1 月 16 日
*申し込み後、都合がつかなくなった方は速やかに連絡ください。
2 月 3 日までに連絡なき場合は会費を申し受けますのでご注意ください。

申し込み先 別紙の申し込み票にて FAX、または手渡しで各地域の新年会実行委員あてに
連絡ください。

★比叡地域	岸 研治	(36 期 地文)	TEL・FAX : 594-5378
★中央地域	田中 滋子	(29 期 スポレク)	〃 537-5544
★石山地域	岸場 栄蔵	(33 期 園芸)	〃 537-2724
★瀬田地域	勝田 幸三	(29 期 文芸)	〃 543-1724

又は、メールにて k-katsuta@zd.ztv.ne.jp 瀬田地域 勝田まで



昨年の新年会の模様

「37 期生新入会員歓迎会&レイカ大津の集い」 結果報告

実行委員長 河嶋 文雄 (35 期 陶芸・石山南郷)

10 月 25 日当日は雨の中で準備が始まり、午後になるとともに天気も回復しました中「レイカディア大学同窓会大津支部・37 期生新入会員歓迎会&レイカ大津の集い」が生涯学習センターで開催されました。多くの皆様にお集まりいただき、ご協力のもと無事終えることができましたこと、心より御礼申し上げます。

結果報告と今後の課題について取纏めましたので報告いたします。

1. 概要

- ・日時 : 10 月 25 日 (火) 13 時～16 時
- ・会場 : 生涯学習センター大ホール
- ・内容 : ①開会 ②レイカディア讃歌斉唱 ③新入会員&執行役員紹介 ④大津支部事業活動紹介 ⑤展示・体験コーナー紹介 ⑥地域懇談会 ⑦展示・体験コーナー ⑧地域対抗ゲーム ⑨滋賀の〇×クイズ ⑩琵琶湖周航の歌斉唱

2. 参加者

合計 93 名 (全会員 255 名 参加率 36.4%) ゲスト参加 + 2 名
37 期新入会員 22 名中 16 名参加 参加率 72.7%
既存会員 233 名中 77 名参加 参加率 33.0%

3. アンケート集計・・・次ページのグラフを参照ください。

- ・回収率は 78.5% (提出者 新入会員・11 人 既存会員・62 人)
退席者は少なかったが、提出の呼びかけがまだ不十分であったのか？

別段のアンケート記入時間設けなかったことが？

- ・新入会員の入会期待動機は、会員相互の交流と親睦、地域活動を中心にボランティア活動への参加が多かった。
- ・運営についての意見は、今後も継続してほしい、地域懇談会が良かった、内容を工夫してほしい、スライドの画面を明るく見やすくしてほしい等の意見が多い。
- ・同窓会についての意見では、今後の発展への期待と「退会しないでいよう」と思えるような会にしてほしい、高齢化してきているので、参加しやすい内容の企画を検討してほしい等の意見が多かった。



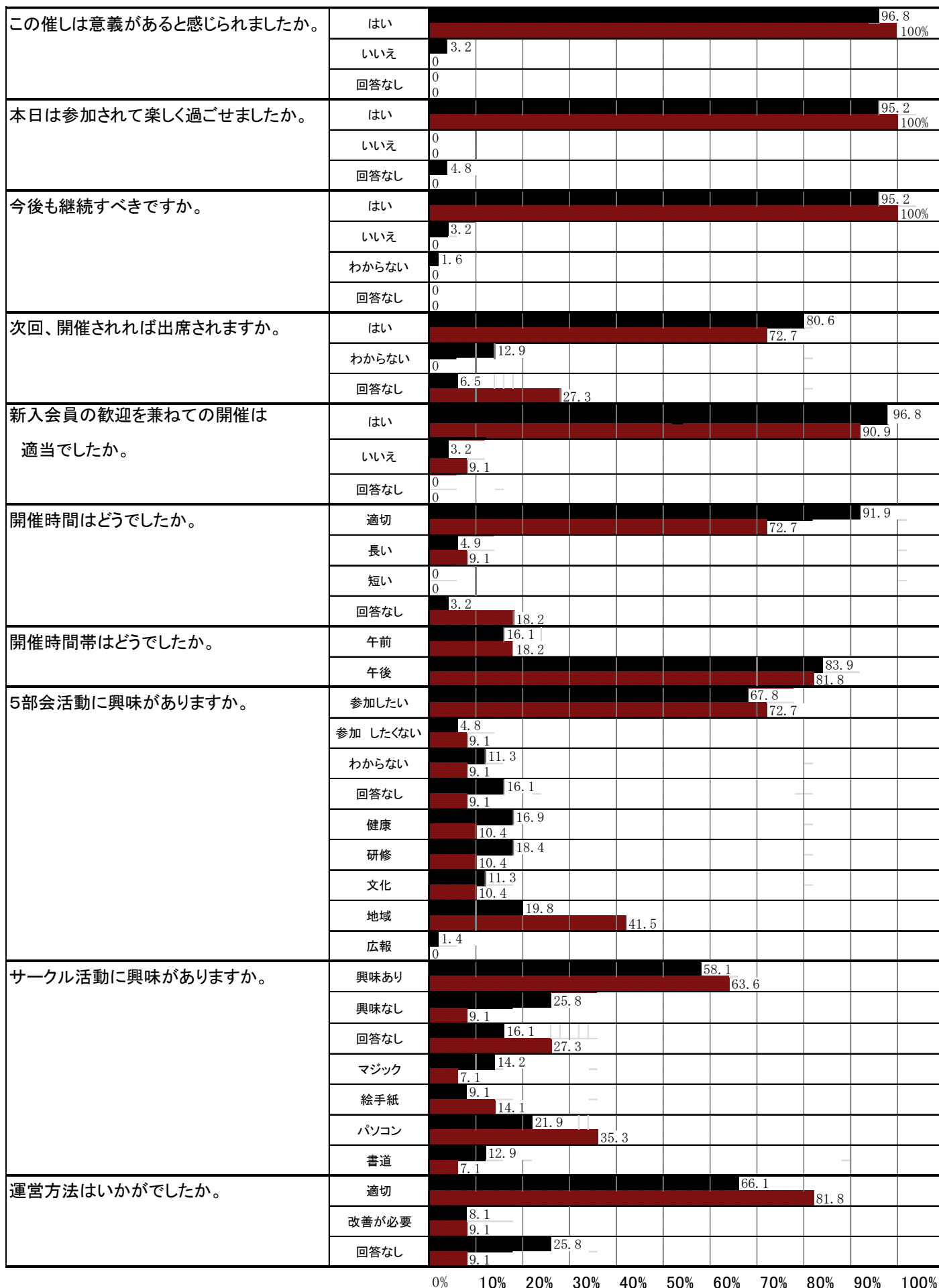
*アンケートに「マンネリ化している」との意見もありました。次年度の開催内容に反映させたいと思いますので、書かれた方、また意見のある方は各支部副支部長まで意見をお寄せください。



37期新入会員歓迎会 & レイカ大津の集いアンケート結果

既会員 回収率80.5

新会員 回収率 68.7



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

故門馬三郎氏を偲んで

佐瀬 章男 (25 期 生活・瀬田北)

7 月 29 日に門馬三郎氏が 90 歳で逝去された。大津支部を支えてきた大先輩の逝去の報は私を驚かせ人生の儚さ、人の世での出会いと別れを実感させた。

門馬さんの人となりや奥様輝子様の支部の香典に対するお礼のふみから以下に紹介致します。「亡くなりました夫はレイカディア大学で学ばれる方々を尊敬しておりました。定められた命しかし真摯な心で生涯を全うした、清い心と慈しみの精神の持ち主だったと思います」(門馬さんを一番よく理解してきた人の言葉に対して他のなんの言葉も無意味です)。

門馬さんは滋賀の文化や歴史、文芸にも興味を持ち色々な活動をされてきました。大津祭りの長柄衆として長く活動されました。県の各種委員会に出席し、一般市民としての意見を述べたりされてきました。

私が門馬さんに声を掛けられたのは、平成 17 年頃であったと思います。びわこシニアネットのサポーターを担当していた時に、レイカディア大学の活動室に入っただけでシニアネットに対しての意見を述べられたことでした。その後大津市の東老人福祉センターでパソコン教室を開催しているので、是非参加して欲しいと誘われました。そのパソコン教室で門馬さんはホームページビルダーを利用せずにホームページ作成を教えていました(この教室は今も継続中です)。びわこシニアネットに投稿欄があったところは積極的に意見を述べておられました。又そのシニアネットが昔の思い出の写真を大募集した企画で門馬さんは自分の航空兵姿を応募された事を記憶しています。このように IT に関しては大変積極的に勉強してこられました。NHK テレビのパソコン講座を勉強されて、その中の新しい技を良く教えて貰いました。

平成 2 年に文芸学科を卒業された後の門馬さんの同窓会での役員歴を調べてみて、大津支部のみでなく同窓会全体を指導されてきた経緯が再確認できました(以下に判明した範囲で記載)。

大津支部長 平成 11 年 4 月～12 年 3 月 (それ以前は不明)

同窓会本部副会長 平成 12 年 4 月～14 年 3 月

同窓会本部会長 平成 14 年 4 月～16 年 3 月

門馬さんが残してこられた大津支部の輝かしい活動を、後世に残していける様頑張りましょう(右の写真は昭和 18 年 4 月の門馬さん)。



昭和 18 年 4 月 雛鷺

大津支部の機関誌「かけはし」にも欠かさず投稿されてきました。少し辛口で勉強不足の私には難解な文書が多かったのですが、そのテーマはいつも時代をとらえていました。

最後の投稿となった「かけはし 51 号」(平成 27 年 12 月発行)では「天寿」と健康 と『少子・高齢化 現象』を投稿されているので、読者の皆様は是非再見下さい。その投稿の中で百歳の人はい多く存在するようになるだろう！120 歳で第 2 の還暦を迎え、敬老される「お年寄り」になる、と高齢化の加速を述べておられる。

最後に戦前から生きて大戦を経験してきた門馬さんの戦歴を紹介すると、昭和 20 年の終戦前に九州で特攻隊に配属されて出撃を待ったが、搭乗機の不調で出撃できず、6 月に沖縄への爆撃作戦は終了、三沢基地に移動して、B29 破壊の一大特攻「剣作戦」の部隊に配属となりマリアナの B29 基地への特攻訓練に参加したが、結局この作戦は 7 月 24 日の作戦発令予定が 7 月 14 日の敵機の急襲で作戦用航空機の損害が出て 1 ヶ月延期となり、終戦を迎えたそうです。

門馬さんにはかけはしに投稿頂いたように 120 歳を目指して頑張って貰いたかったのですが、これも上記の原稿でご本人が言う寿命は天寿なのかも知れません。ご冥福を祈ります・合掌

「第15回生涯学習フェスティバル2016」に参加

子供から大人まであらゆる世代に学ぶことの楽しさ・大切さを感じてもらう「第15回生涯学習フェスティバル2016」が9月22日、大津市皇子が丘公園体育館で開催されました。会場には約30団体がブースを設置。約2千人の親子連れが多彩な催しを楽しみました。

大津支部の催し物はマジックと紙芝居で、マジックサークルから5名、地域文化学科卒業生の有志6名の方々に演じていただきました。

大津支部のコーナーも好評で小さな子供さんを連れた親子で賑わいました。出演者の熱演に一体感が生まれ、小さな子供さんは興味津々の目で、目の前で見た感動、生で体験するインパクトのすごさに大はしゃぎでした。年代には関係なくコミュニケーションが取れるマジック、紙芝居の面白さが発揮されました。

出演者の皆様ありがとうございました。おかげさまで盛況裏に終わることができました。熱演の様子的一端をご紹介します。



「神戸ひまわり号 in 大津」のボランティア

脇田 進（33 期 陶芸・南郷）

神戸の障害者が「楽しい旅をしてみたい」という切実な願いを乗せた第 30 回神戸ひまわり号が 11 月 13 日、JR 大津駅に到着。障害者 70 名、ご家族・介助ボランティアスタッフ 111 名、総勢 200 名弱という一行を大津市社協の皆さんと一緒に笑顔と「温かい気持ち」で出迎えました。

第 30 回を数えるという「ひまわり号」ですが、フレンドシップトレインと銘打ち今回は、大津市内散策と琵琶湖ミシガンクルーズがメインの「ふれあい旅」です。

今回は大津市社協の要請に応じて、大津支部から 13 名、他支部から 1 名の計 14 名が急な要請にも拘らず参加頂き、支部の底力を発揮することができました。レイカ大津として介助ボランティアは初参加ですが、障害者のはじけた笑顔に緊張感がほぐれました。

秋晴れの中、長い行列が大津港を目指して散策。障害者の楽しそうな所作に接し、心もほぐれ、楽しい旅になるようにと応援しました。

秋も深まる湖国の「ふれあい旅」で皆さんはどんな出会いを体験されたでしょうか。きっと皆で楽しもうという気持ちを共有されたかと思います。湖国ならではのおもてなしが一体感を演出しました。ボランティア参加の皆さんありがとうございました。



第9回地域活動事例発表会

福井 かおる（34期 健レク・唐崎）

平成28年11月14日（月）近江八幡市のひまわり館で第9回地域活動事例発表会が開催されました。当日は来賓として、近江八幡市市長の富士谷様、近江八幡市社会福祉協議会会長の二村様、滋賀県社会福祉協議会の熊越様にもお越しいただきました。

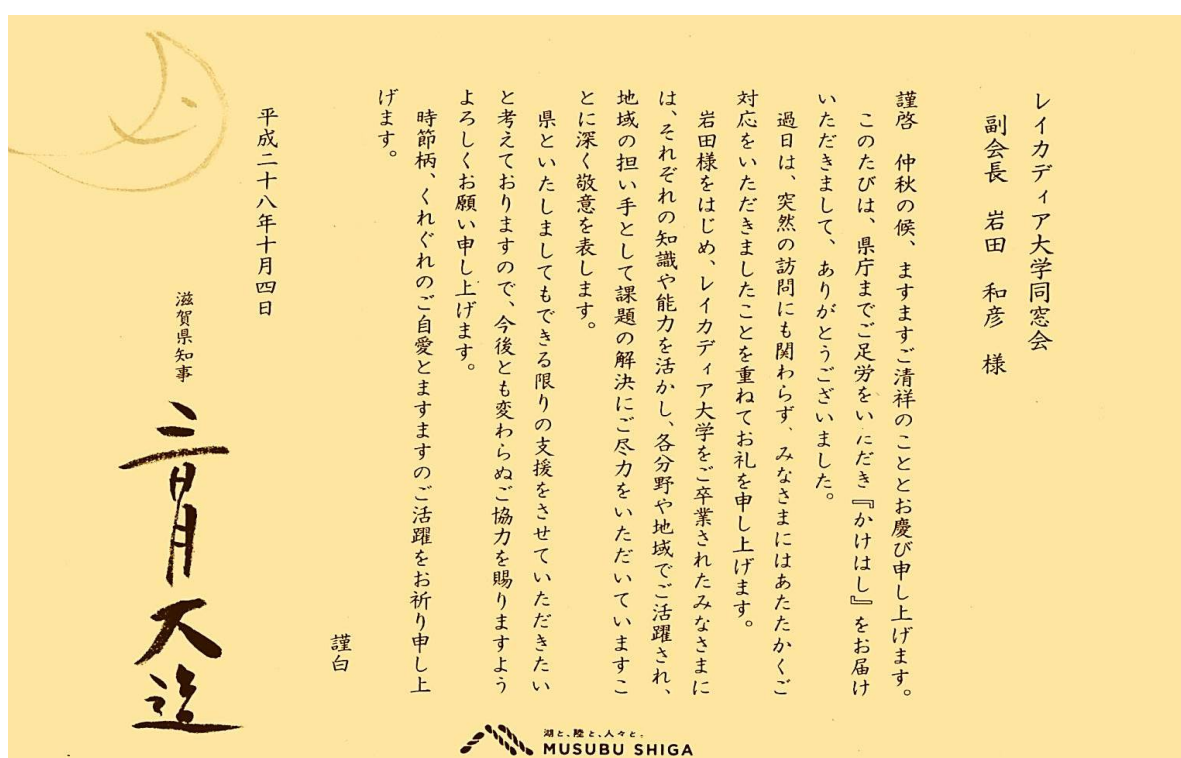
参加者は159名（うち在校生17名）と大勢の参加で会場が盛り上がりしました。大津支部からも13名の方に来ていただき、文化部会長の棚橋さんが「市民体験陶芸講座の活動経緯と継続」をテーマに発表されました。陶芸学科卒業の皆さんが地道に熱心に、長く継続して活動されているのをお聞きして感動いたしました。

来年もみなさまの発表を楽しみにしています。



三日月知事からのお礼状の紹介

岩田支部長が「かけはし」54号を知事室に届けた後に、丁寧なお礼状が送られて来ましたので、紹介致します。「かけはし」は会員の他、レイカディア大学学長、市役所関係部署、大津市社協、大津市在住の38期・39期の在校生、関係者等にも配布されています。



[新入会員投稿]

卒業後、今後の活動は

木村 幹男 (37 期 園芸・瀬田月輪)

退職時に毎年新しいことに挑戦しようと心に決め、今のところは実施ができています。レイカディア大学もその一つで、ご近所の方が卒業されていたこともあり、同じ習うなら今だと思い、園芸学科を受講した。

受講の目的は菜園もあったが、特に家の庭木の剪定を5～6年前から自分でしているが、それまでは造園屋に剪定してもらっていたが、年数が経つにつれ、樹形が乱れてきたことや、これから先も楽しんで剪定をし、自分の庭作りをしたくて受講した。今は学んだことが幾分か剪定に活かされているように思うが、先般、草津市の芦浦観音寺の剪定ボランティアに行き、先輩諸氏の道具の扱いや剪定方法に学ぶ点は多くあり、これからも人との関わりを持ちながら、継続していければと強く感じた。

昨年は初めての「菊同好会」にも参加し、6ヶ月の手塩をかけた3本仕立ての菊も菊花展に出品も出来た。また、琵琶湖で開催されたボートの「わかやま国体」のボランティアや大津市のシルバー健康カレッジにも参加して、そこで学んだことは、「働けるうちは働くこと」であった。早速4月からはバイトも始め、新たな職場の仲間とも楽しく仕事をしながら、これから先も健康に留意しながら、出来る限り長く今のバイトを続け、社会への貢献をしていくつもりである。

今年は、特に自治会の役員などもあり、これから先もこんなに忙しくなる年はないと思う。1日を午前、午後、夜の行動パターンで管理しながら、その日その日を過ごしている。

今後の活動は、レイ大で学んだ剪定を活かした、37期園芸学科で取り組む守山市にある「びわこ地球市民の森」やレイ大のサポート隊、また、草津市の芦浦観音寺やレイカ同窓会大津支部による地域の小学校の剪定を主にしながら、地域ボランティアをしていくつもりであります。

先輩諸氏の皆さま方、今後ともよろしくお願い致します。



楽しかった2年間

松井 清子 (37 期 園芸・田上)

レイ大に入学して初めのうちは、何がなんだかさっぱりで、もう30年も40年も、昔の事のように思える事が多く、今の私は、みんなについて行けているのかと不安がいっぱいでしたが、クラスのみなさんに助けられて、たのしい日々を送る事が出来て本当にうれしかったです。ここ何十年、こんなたのしい事があったかな、と思うこの頃です。

又、卒業してからは、新しい人たちとの出逢いが、少しわくわくしております。体力の続くかぎり、みなさまと仲良くさせて頂きたいと思っております。宜しくお願いいたします。

日々を大切に

中谷 浩治 (37 期 びわ環・瀬田)

会社勤めをしていた最終の会社を退職までの期間を第1の人生と区切り、退職(平成26年8月)後の人生を第2の人生とすれば、私の第2の人生の始まりは、平成26年9月滋賀県レイカディア大学に入学した時期から始まります。入学願書を期限ぎりぎりに大学の窓口に届けたのを今も鮮

明に覚えています（窓口の女性職員が足腰は大丈夫ですかと心配してくれました）。

若い頃は山登りが趣味でした。私の人生を山登りにたとえますと、今は下山途中であり麓はもう目の前です。山登りのように期日や時間に制限されずに周囲を眺めゆっくりと下り坂を楽しみながら今少し、時を刻ませていただきたいと思います（許されればのこと）。

第1の人生では私の場合、上司から仕事を与えられ、企画書を作成、工事予算の管理、工事工程の進捗管理、切換工程の調整等で、急な道緩やかな坂道はあるにしても目標がしっかり定まっていました。

第2の人生では目標を自分で探し求めなければならないと思っています。レイカディア大学に入学したのも、その気持ちがあったからです。びわこ環境学科では、琵琶湖の学習は勿論、地球環境について学びました。我々の住んでいる地球は、いま、重篤な患者であると思います。このままだと今の赤ちゃんが孫を見る頃には、取返しのつかない状況になっているのではないかと心配しています。

今は、目標はもやもやしているがつかめない状態で、日々を過ごしています（三日坊主よし）。まずは健康の維持、ご縁を大切に作る、人々に会う（孤独はいいが孤立はだめ）をモットーにしています。



レイ大での2年間を振り返って

小林 茂（37期 園芸・石山南郷）

レイカディア大学入学のきっかけは、私がまだ現役会社員のとき、家内が市民センターから持ち帰った入学募集のチラシでした。実はその頃、定年後に何をしようか悩んでいる時でした。チラシの内容を見て「よし、定年後はここに行こう！」と決意。

それから約1年、めでたく定年退職を迎えた次の日の10月1日がいきなり入学式。長年会社生活を続けて来た私にとって、全く環境の違う人との関わりは、ある意味新鮮な気持ちで一杯でした。年齢の近い人もいれば、一回り以上も違う人もいる、そんなクラスの中で、入学式の日にいきなり各種委員を決める抽選が始まり、文化委員が当たりました。その後、更にクラス代表を決める抽選の結果、大当たり、クラス代表になってしまいました。

その後、クラスのメンバーが6つの班に分かれ、連絡網の整備や授業資料の配布がスタート。ここでまず第一の仕掛けは、クラス全員分のクリアファイルを名前を付けて準備。これで配布物は楽に処理できる・・・と。更に第二の仕掛けは、同じ班のメンバー一人ひとりがどんな人物なのかを知る目的で、自己紹介リストを作成。

1. 氏名、2. 居住地域（市）、3. 居住地区でのボランティア経験内容、4. 自分の園芸経歴、5. レイ大園芸学科への期待（何を学びたいか）、6. 趣味・特技。以上6つの項目でプロフィールを調査。中にはパラリンピックで全国3位の囲碁名人や、プロの庭師・・・と色んな特技を持った人ばかり。これが他の班にも展開され、更にはクラス全体に波及。これがクラスメンバー全員の人となりを知る上で大きな効果がありました。

やがて10月の終わりに文化委員が招集され、委員会開催。そこでようやく文化委員の役割りを理解することが出来ました。翌年8月に行われる“大学祭”の企画推進から運営。それが我々文化委員のミッションと自覚。しかしここで大きな難題が。実は一年目は文化委員副委員長、そして二年目には文化委員長という大役が既に決まっていたことでした。これは輪番制で決まったこととのことで、誰かがやらねば・・・という思いで引き受けることにしました。

最後の仕掛けは、大学祭の実行に向けた、数々の決め事を順番に明確にして行くこと。毎月の実行委員会では開催日程の調整とその為の資料づくり。そして委員会の後の議事録の作成にと、必須講座・選択講座はそっちのけとは言わないまでも結構忙しく、また色んな仕掛けづくりを行い、今思えば楽しい2年間でした。

しかし、文化委員をやって良かったと思うことがあります。それはクラス以外のメンバーとの出会い。それは各学科長、文化委員、本部役員、サポート隊の方々と大学祭の成功に向けた議論をする中で「色んな人がいるなー・・・」と感じたこと。これから同窓会の方々との新たなお付き合いを通じて、更なる繋がりや輪を広げられたらと思っています。

私の自己紹介と活動内容

藤田 順一（37期 園芸・志賀）

37期園芸学科Aを卒業して、大津支部志賀地区に所属しました。

2年前に応募した理由は、民間会社を定年退職後、3年程度継続して勤務の後、要支援になっている義母が住んでいる住宅改修工事も一段落したことから、ホームページで情報を得ていた、レイカディア大学で学ぶことにしました。

園芸学科を選択したのは、次の3点からです。

- ① 私と妻の実家は共に農家であり、取り組み易い野菜作りの勉強。
- ② 大津市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録団体となっているフラワークラブに、20年程度前から所属して、今では代表者としてボランティア活動を行っている花の知識を深めたい。
- ③ 庭木の剪定が出来る勉強したい。

2年間学んだことを基に、卒業後の活動として3点を継続することにしました。

- ①の野菜造りは、課題学習のテーマに『有機栽培に挑戦』を選び纏めました。

今では、実家での野菜造りは全て有機肥料にしました。

レイカディア大学園芸学科とは別なところで、値打ちの無い資格であるが在学中に野菜栽培士の認定を受けました。

- ②の花の知識を深める活動は、毎月1回野洲市にある障害者施設『びわこ学園花壇ボランティア』に参加し花壇整備の活動をしている。

- ④の庭木の剪定は、毎月1回草津市の国史跡の天台宗・芦浦観音寺の『庭園ボランティア』に参加し、庭木剪定の活動をしている。

他に行っているボランティア活動に、地域の古墳周りの遊歩道整備を目的とした、『古墳を愛する会』に所属しております。他、市民ボランティア団体『大津市まちなかスッキリ士隊』の研修を受けましたので、これから電柱などに貼られている違反広告物の除却活動にも参加する考えです。卒業後、園芸クラブに参加して、月1回センターの庭木整備に参加するのと、サポート隊事業企画部に所属して学生募集と大学祭の支援、更に『えにしの会』にも所属して活動を深めます。

在学中に所属していた、滋賀県の城跡を訪ね歩く『城郭探訪会』と『菊づくり同好会』も継続中で、大津支部同窓会の活動も多くなる中、先輩の方々の活動を心の支えとして同窓会活動に参加して行きます。

常夜灯

三宅 乃芙子 (37 期 地文・膳所)

課題学習でグループ丸子船として4名で「琵琶湖の水運」を
発表しました。

その中で灯台の役目をした常夜燈を多く見て回りました。湖
岸の改修に伴い、多くの常夜灯は湖岸道路より内陸側に残され、
どこにあるのか分からず、探すのに苦労しました。石場、小船
入、関津の常夜灯は大津市に、矢橋の常夜灯は草津市にありま
す。それぞれ個性的でとても素晴らしいものです。これら常夜
灯に往時のようにぼうとした明かりが灯ればどれほど風情があつて素敵だと思いませんか。せち
がらく信じられない様な事件が多発する中で、昔を偲ぶ風情に何かしら心安らぐ明かりとなるの
ではないかと思います。滋賀県には立派な常夜燈が多くありますが夜に明かりがともっているの
は無いのではとされています。



夜が更けると県内の常夜燈に明かりが灯れば、素晴らしい近江らしい滋賀県になるのではない
かと思います。

レイ大卒業で感じた事

梅田 和美 (37 期 健づ・瀬田一里山)

自分では人並みに、仕事を通じて、又子育てを体験してすべての社会を知ったつもりでいたの
で、退職後は余生を穏やかに過ごしていましたが、レイ大での学びや仲間とのコミュニケーション
の大切さを学ぶ事で得る事の多い、かけがえのない心の財産になりました。

2年間の大学生活は、オーバーな表現をすると「未知への遭遇」と思える体験で知らない世界、
はじめて知る仕事、あらゆる地域の歴史や各方面の方々の考え方等、知らない多くの情報や知識
を各方面の精通した先生から学び知る事が出来ました。

人生 90 年と言われる現代に「安易に過ごしていたら勿体ない」と気付いた次第です。と言っても
新しい冒険や大それた活動を起こせる器も持ち合わせていないので、視野と心を広げて“仲間と
一緒に！出来る時に、出来ることを、出来る範囲で！”。少しでも諸先輩や仲間のお手伝いが出来
るようになればと思っています。

そしてこれからの人生において新しい事に挑戦する時には学んだ事が血となり肉となるよう、更
に見識を高める努力を続けて行きたいと願っています。

無題

落合 修一（37 期 びわ環・石山南郷）

9 月にレイカディア大学を卒業してあっという間に 2 か月が過ぎ去りました。縁あってこのような大学に入ったのだから、「卒業しても何らかの形で知り合った人と繋がりを持てたらいいな」という思いでこの同窓会に入りました。しかし、残念ながらこれまで一度も行事には参加出来ていません。何故かといえば、秋は趣味であるバードウォッチングをそのなかでも特にタカの渡りが好きで、他のことより優先してしまうからです。

現在、在職中は休日しかできなかったことが、やっとフリーになって好きなようにできるようになり、この幸福感を満喫しているところです。「元気で動き回れる今のうちに鳥見しながら北海道から沖縄まであちこち旅行することを楽しむ」。この考えで年に数回、自分で計画を立てて鳥見旅行を実行しつつあります。このような鳥好きの人間ですが、1 年中鳥見しているわけでもないのと同窓会にも今後参加させて頂こうとも思っています。そのときは皆さんよろしくお願いします。

バードウォッチング以外では、若い時に山登りや釣りなどもしていましたが、今はたまに近くの低い山へハイキングに行く程度です。釣りは九州から転勤して綺麗な海が遠くなったこともあり 8 年近くご無沙汰しています。おそらく道具もさび付きそのまますぐには使えないかもしれませんが、整備してまたいつか行こうかなと思っています。このような私ですが、趣味が合いそうだと思われる方がおられれば気軽に声をかけて頂けるとうれしいです。

レイカディア大学必須講座聴講のお知らせ

卒業生にレイカディア大学の必須講座を聴講できる機会を作っていただいておりますが、本年度は次の内容で予定されています。聴講を希望される方は申込みをお願いします。

- 1、日時 平成 29 年 1 月 27 日（金）午前 10 時～12 時
- 2、実施場所 レイカディア大学 草津校（県立長寿社会福祉センター）大教室
- 3、テーマ 「神になった秀吉」
- 4、講師 中島 誠一氏（長浜曳山博物館館長）
- 5、聴講定員 30 人（大津支部 割り当て 9 名）
- 6、聴講料 無料
- 7、申込みの方法 平成 28 年 12 月 31 日（土）までに、地域、氏名、卒期、学科を明記してメールまたは電話にて、福井まで申込みしてください。

申込みが 9 名を超えた場合は抽選で決定します。

電話 090-6519-0342 メール k_f1231@ybb.ne.jp(k と f の間にアンダーバーがあります)

- 8、聴講が決定した方へは福井からメールまたは TEL にて連絡します。

〔部会だより〕

「健康部」

～たのしく なかよく 元気よく！～

<第2回ディスコン大会報告>

清水 雅文（36期 地文・皇子山）

10月30日（日）午前10時より第2回ディスコン大会が膳所市民センターの3階で開催されました。定刻の30分前にはほとんどの会員が集まり、やる気満々の雰囲気伝わってきました。37期の新入会員は女性の方が多く華やいだ大会になりました。荒堀部長の丁寧なルール説明で初参加でもすぐに理解できゲームに熱中することが出来ました。21名の参加があり5名で1組の4チーム（荒堀部長は審判）を編成して熱戦を繰り広げました。予選、3位4位決定戦そして決勝戦と各チーム頭脳と技を駆使して戦いを繰り広げました。身体を動かしゲームに熱中して頭をクリアに出来、終われば気分爽快の2時間でした。少し身体を動かしたい、ちょっと運動不足かなと思われるかたには最適なスポーツだと思います。



<歴史探訪ハイキング報告>

荒木 澄子（33期 健レク・瀬田北）

11月25（金）秋晴れに恵まれたこの日8時に自宅を出て石山駅へ。一番乗りにて、他35名の到着を待った。芭蕉の銅像に見送られ、いざあるけ歩け。国分町の西方寺では国分寺跡の礎石（へそ石）にふれ、晴嵐小学校内敷地に国分寺跡を記した石柱があり、この辺りの台地には七重の塔が建っていたとのこと、遠望の近江国庁へとつながる官道（東山道に通じる）の説明に歴史ロマンは尽きない。幻住庵では芭蕉の俳句にふれ、太子堂では聖徳太子二歳像を拝し、眺望も素晴らしかった。石山寺では33年に1度、御開扉された如意輪観世音菩薩を拝し、見た、聞いた、歴史ロマンに感動した探訪ハイキングとなった。帰路、芭蕉が詠んだ「かくれけり師走の湖のかいつぶり」を思い出しひたすら歩いた。16時30分自宅着。27,271歩、よう歩いた。



◎今後の活動計画（多数のご参加をお待ちしています）

- ・第3回グラウンド・ゴルフ大会 平成29年1月23日（月）13:00～ 矢橋帰帆島公園
- ・第3回ディスコン大会 平成29年2月20日（月）10:00～ 瀬田公民館大講堂
- ・3月 研修部と合同で第2回歴史探訪ハイキングを予定しています。お楽しみに。

＜レイカ大津市民陶芸体験講座開催＞

去る10月14日大津市生涯学習センターで開催しました。参加者23人（応募者数49人）、講師（支部同窓会員）14人の下、成功裏に終了する事が出来ました。一時は開催も危ぶれましたが皆さん（OB）のご協力のおかげで開催し無事終了致しました。ここに紙面をお借りして、講師の方々に厚く御礼申し上げます。



＜大津支部作品展の開催＞

大津支部作品展を平成29年4月21日（金）～4月23日（日）まで開催します。皆さん、奮ってご応募をお願いします。

趣旨・目的は支部活動のより一層の活発化を目指し、又日頃の会員の活動等を作品展を通じて地域あるいは会場を訪れた人々にアピールし、レイカディア大学と同窓会に対する理解をより一層深めて貰うことです。

開催内容・応募要領

- 1、期日 平成29年4月21日～4月23日
(展示期間21日午前12時～23日午後3時)
- 2、会場 大津市生涯学習センター 1Fギャラリー
大津市本丸6-50（膳所公園の向い側）
京阪電車膳所本町駅から徒歩5分
- 3、出展数 1人に付き、壁面掲示作品は2点以内・机上展示は3点以内
- 4、品目 絵画—油絵・水彩画・日本画・水墨画等
工芸—陶芸・手芸・木工・篆刻等
文芸—書道・短歌・俳句川柳・絵手紙等
園芸—盆栽等
生け花・写真・活動記録等
- 5、申込み締切り 3月27日（月）
＊詳細は別紙をご覧ください。



写真は昨年の作品展

「研修部」 ～参加して 味わおう 知る楽しさを～

研修部・健康部合同企画『幻住庵と石山寺』の探訪ハイキング

参加者 36 名が JR 石山駅に集合、出発前に健康部の指導で事故防止のためのストレッチ運動が行われました。バス使用の方は一人もおられずに、完全なハイキングとなりました。

最初の案内人は、中山敏夫さん(35 期 地文・北大路)でした。北大路御霊神社・西方寺・国分寺跡から近津尾神社の詳細な説明がなされました。特に近津尾神社に関しては、氏子でなければ知りえないご神体に関わるお話もあり、大変興味深いものでした。

幻住庵では担当の方、そして太子堂では真田理事長に長時間にわたる説明を受け、その歴史やえにしを感じさせられました。

昼食後、33 年振りの御開扉の石山寺を澤島令子さん(33 期 地文・北大路)に案内をして頂きました。残念ながら紅葉が過ぎてはいましたが、天候も良くところどころに素晴らしい景色があり、御両人の名ガイドで充実した一日になったと思います。



今後の計画

- ★ 1 月・2 月頃に滋賀県の防災の実態経験 < 県の防災センターの見学など >
- ★ 3 月・4 月頃に健康部・研修部合同企画の花見のハイキング < 京都の桜見物を中心 >

「地域活動部」 ～無理しない！ 出来る時に、出来ることを、出来る範囲で～！

《活動報告》

大津祭ボランティア無事終了（10月9日 本祭）

私共レイカディアグループは、リピーター団体として一般応募ボランティアより早く募集することが出来、7月14日迄に延72名（レイカ大津会員、在校生、サポート隊）の多くの応募を頂きました。9月16日に巡行順番を決める「くじ取り式」が天孫神社で厳かに行われ、猩々山は3番、殺生石山は8番のくじを引きました。この日から大津祭の祭礼期間となりお囃子の稽古も始まります。

9月25日の午後に巡行曳山の説明会が行われ、私達世話役2名が代表として参加しましたが、在校生の方4～5名がインターネットで調べて参加されました。応募者に対しては説明会后、その情報を応募者にお知らせするつもりで、7月の応募から9月の説明会の間に何も連絡を入れておりませんでした。

10月2日午前「宵宮」、「本祭」のお手伝いして頂く方の説明会が行われ、レイカディアグループのお手伝い応募者にご案内を差し上げました。説明会の内容はお手伝い班毎に分かれての説明ですので、欠席者の調査をして、その人達に説明会の内容を報告しなければなりません。私達世話役2名が中心になって、各班の説明内容を再度聞き取り、欠席者にお知らせをしました。在校生、サポート隊の方の連絡が大変でした。中にはiPhoneから私のEメールに送信され、それを返信で送り返そうとしても届きませんでした（フィルターを掛けておられた？）。従ってiPhoneの人を探し、その方から送信して頂き連絡を取ることが出来ました。10月2日の午後からの山建て後の曳き初めは13時30分頃の予定が約1時間遅れてスタートしました。当初、猩々山だけの予定でしたが人数が多かった（15名）ため、急遽殺生石山の2班に分かれて綱を曳きました。

10月8日（宵宮）の宵宮曳きは打合せ時 14時からと伺っていたが実際は13時30分頃からスタートとなりました。従って時間通りに来られた方は、後から追かけるかたちになりました。宵宮には宵宮飾りと言って曳山巡行時に乗せられる「からくり人形」が各町内の民家に飾られて身近に見る事が出来ました。また、三日月知事もお連れの方と宵宮を楽しまれていました。

10月9日の本祭は夜中の雨も上がり、午前中は曇り空で午後からは晴れ間も見えました。猩々山はレイカ大津が担当8時集合、殺生石山は在校生とサポート隊担当7時40分集合で法被と手拭、名札を身に着け、当日の説明、及び注意事項等を受けて（殺生石山は、その後記念写真撮影と乾杯を行う）、8時15分頃出発し、百石通り天孫神社前に9時に13基が集合しました。9



時25分の巡行開始から旧大津市内巡行を終え町内に帰着したのが午後6時頃でした。神様のお加護を得て、天気にも助けられ市民と共に楽しむことが出来たボランティア活動でした。特に今年は3月2日に「国指定重要無形民俗文化財」として国の指定を受けたことを記念して、天孫神社と下百石町の神輿2基が50年ぶりにそろって中央大通りなどを渡御しました。その安全神輿班として神輿と観衆の警護をレイカディアとして3名の方が携わって頂きました。また、越市長も一般観衆として楽しんでおられました。

最終のボランティア活動者は延68名で人員は40名でした。当初の応募者から4名欠員が出て

2名は予備員で対応しましたが、後の2名につきましては皆さん方に無理を聞いて頂き、誠に有難うございました。初めての世話役として、ひやひやの連続でしたが何とか無事に終了することが出来ました。



10/2 曳き初め



10/8 宵宮曳き



10/8 宵宮交通安全ボランティア



10/9 本祭巡行

《ヨシ刈のご案内》

1) 市民ヨシ刈

日時：平成29年1月29日（日）9：00～終了まで（少雨決行）

集合受付：8：50まで

場所：大津市雄琴6丁目地先湖岸（アクティバ琵琶前湖岸）



2) 下阪本ヨシ刈

日時：平成29年2月4日（土）9：00～

集合場所：比叡辻自治会館裏側 刈込場所：唐崎公園、坂本城址

3) 膳所公園ヨシ刈

日時：平成29年2月26日（日）9：45集合、10：00作業開始

集合場所：膳所市民センター 刈込場所：膳所公園湖岸



申込先：山口 玄洞 Tel:077-545-6156、FAX：077-545-5350、E-mail:gendou@sepia.ocn.ne.jp

奥田 耕治 Tel&FAX:077-573-5462、E-mail:k.j.biwa.jp@zd.ztv.ne.jp

＜参加希望箇所と氏名、地区名、連絡先（Tel）を明示ください＞

●各自準備する物：長靴、汚れてもよい服装。軍手・鎌は主催者で用意。持参も可 *詳細は別紙参加申込書をご覧ください。

小学校応援活動表 平成28年度4-11月分

地域	応援項目	活動小学校名	校数	参加者数	回数	摘 要	
						内在校生	内協力者
比叡	剪定・同補助	仰木の里、真野北、坂本、木戸堅田、小松、仰木の里東	7	109	12	2	14
	図 書 管 理	伊香立、仰木の里、木戸、堅田	5	31	5		
	小 計		8	140	17	2	14
中央	図 書 管 理	逢坂、平野	2	60	14	4	
	小 計		2	60	14	4	
石山	剪定・同補助	石山、南郷、青山、大石	4	61	7		
	小 計		4	61	7		
瀬田	剪定・同補助	瀬田東、瀬田北、瀬田南 瀬田、瀬田(幼)瀬田北(幼)	6	196	14	7	29
	校庭花づくり	瀬田東	1	74	11	20	26
	図 書 管 理	瀬田南	1	75	56		14
	縫 製 応 援	瀬田東	1	25	24		
	行 事 応 援	瀬田北	1	10	2		
	小学校応援瀬田ミーティング		－	79	3	4	3
	小 計		6	459	110	31	72
合 計			20	720	148	37	86

まちなか応援活動表 平成28年度4-11月分

応援項目	場 所 ・ 内 容	参加者数	回数	摘 要	
				内在校生	内協力者
スッキリ士隊	瀬田中学校、田上枝三丁目	26	2		
囲 碁 対 局	コンサルテ瀬田	21	6		8
	そよ風	1	1		
	真心デイサービス横木店	6	6		
将 棋 対 局	大津老人ホーム	12	12		
	福寿荘	2	2		
瀬田川リバプレ隊	瀬田川左岸京滋バイパス下	6	3		
大 津 祭	山建て(曳き初め)	15	1	4	
	宵宮(宵宮曳き)	15	1	5	
	本祭(巡行)	17	1	5	2
	曳手外(宵宮)	6	1		
	曳手外(本祭)	15	1	8	
	計	68	5	22	2
介護ボランティア	神戸ひまわり号in大津	14	1		
合 計		156	35	22	10

中央地域・地域ミーティング開催

安田 照美 (33 期 地文・皇子山)

平成 28 年 9 月 13 日（火）に皇子山地区主催で中央地域の地域ミーティングを開催しました。行き先は陸上自衛隊大津駐屯地。副支部長の小野英明さんは元自衛官で、こちらで勤務されたこともありました。

長年大津に住んでいながら施設内に入った事がない人が殆どで、ロコミで興味を持たれた地域外会員 7 名を加え総勢 26 名の参加となりました。当地は城山三郎の小説「一步の距離」の舞台となった場所で、海軍航空隊の練兵場、進駐軍キャンプを経て現在の規模に縮小されました。

資料館には写真、高官の制服や肩飾り、高級そうな革製長靴などが展示されていました。自衛隊カラーの大型トラックが何台も駐車しており威圧感を感じました。

昼時には迷彩服を着用した大勢の若い隊員があちこちから集まってきました。混雑を避け、少し早めに食堂で部隊食を試食。メニューは麦飯、冷や汁うどん、ひじきの煮物、ごぼうのごま和え、高野豆腐のサイコロ揚げ、巨峰、牛乳。ヘルシーで結構美味でした。参加費はこの昼食代実費 395 円から支部からの地域ミーティングの補助金 100 円を引いた 295 円でした。売店では自衛隊グッズの販売も行なっていました。

集合から退出まで約 1 時間 45 分。食事時間は 20 分程で大変慌ただしい見学となりましたが、規律に従い隊員の邪魔をしないよう出来るだけキビキビと行動するよう努めました。

こちらで実質的に解散となり、希望者 11 名が「びわ湖大津館」でコーヒータイムを楽しみました。天気予報では雨だったのですが、殆ど雨も降らず、無事地域ミーティングを終えることができました。初めてお会いする会員の方もおられ、顔つなぎもできて、良い機会となりました。参加者のご協力に感謝します。



一口メモ

大津駐屯地は中部方面隊(北陸・東海・近畿・中国・四国の防衛・警備・災害派遣等を担当)に属し、部隊・機関として、中部方面混成団本部、第 109 教育大隊、第 4 陸曹教育隊が置かれています。中部方面隊総監部は伊丹市です。

<陸自ホームページから抜粋>

[わが町の歴史]

瀬田の歴史

山元 すなを（19 期 生活・瀬田）

昔を今語りつぐ者も数少なくなりましたが、瀬田の町にはたくさんの名所が残されております。名高い瀬田の唐橋を渡れば日本武尊が祀られてあります。東北に進めば近江国庁があり、広大な昔の面影をそして憩いの場として残されてあります。7世紀後半から須恵器と鉄の大生産地であった地には、奈良時代になると律令制度に基づく国の政治機関である国庁が置かれました。国庁では国から派遣された国司が一般行政の他、軍事、司法、宗教、交通の仕事を取仕切っていました。現在でたとえれば、滋賀県庁と滋賀県警、大津裁判所を合わせたような役所でした。この国庁跡が発見されたのは昭和38年で、日本で初めて国庁の実態が明確になった発掘調査でした。この調査により国庁の構造が藤原宮や平城宮の中心と同じ建物配置であったことが明らかにされました。その建物配置は東西棟の建物を二棟、南北に並べ、さらにその両脇に長大な南北棟の建物を配置したもので、建物の基壇に屋根に葺く瓦が積み上げられていたり（瓦積基壇）、軒先の瓦の紋様に飛雲紋が施されていたりすることから、近江独自性が伺われます。建物の柱は礎石の上に建てられており、非常に立派なものであったことが分かります。



この国庁に関連する遺跡として調査が行われた惣山遺跡があります。惣山遺跡は近江国庁の東方約400m、現在の大津市神領2丁目字惣山、大江6丁目惣山に広がる遺跡で、奈良時代から平安時代の瓦が多く散布し、跡あるいは官衛跡ではないかと考えられていました。しかしながら平成8年（1996年）と当地には南北約300mに亘った、直列に12棟の建物が建ち並んでいたことが分かりました。1棟の規模は南北21m、柱が3m間隔で、8本東西6m柱が1.5間隔で5本で周りには、雨落溝がめぐっています。礎石や礎石の下に根石等の位置から総柱であったことが分かり、合計40本の柱で建物が支えられていて、建物の周辺からは大量の瓦が見つかり、軒先の瓦に混じった鬼瓦や修の字の刻印のある瓦等が見つかり、土器も出土しており、およそ8世紀後半から10世紀の後半（今から1200年から1000年前）の200年間近江国庁の時期を同じくして、建物が建ち並んでいました。一番北の建物はその規模配列等から、倉庫と考えられますが、発掘調査では中に入れていた物の情報は得られませんでした。当時の国庁の強大な国力を人々に示すためには打って付けの施設であったことは間違いないようです。

北西に行くと琵琶湖から流れる唯一の河川、瀬田川、その元に当たる東岸に近い小高い丘の上にあるのが窪江城。瀬田川をはじめ、南湖一帯を一望出来る要衝の地に立つお城は戦闘だけでなく、湖上交通監視の砦として、重要な役目を担ってきた。築城年代や城郭の規模などについては、ほとんど資料は残っていないため、はっきりしたことは分からない。ただ、言い伝えによると、建武年間（1334年）近江の国の守護職、佐々木氏によって築かれたと言う。始めは勢多判官の一族が守備に当たっていたが、室町時代に入ると足利氏の武将摂津掃部頭が付近の大江大萱などの一帯を支配するようになり城主となった。しかし、戦国末期には佐々木氏の家臣で六地蔵（栗東町）の城主だった高野甲斐守が支配、さらに織田信長の時代になると、隣の瀬田（勢多）城主山岡景隆の弟景祐が入った時の権力者に近い武将が城主に選ばれていることは、それだけ監視所として重要な位置にあったことを示しているといえよう。山岡兄弟は始め佐々木氏に属したが、後

に信長に仕える景隆は瀬田架橋奉行として重用され、下流に有った唐橋を現在の場所に架け替えた。天正 10 年本能寺の変で倒れた信長に味方して景隆は唐橋を焼き落とすと、安土城に向かっていた明智光秀は、ここで行く手を阻まれるのだが、景祐は徳川家康を守って甲賀に退いた兄、景隆と行動を共にする後、兄弟は豊臣秀吉に仕えるが景祐は賤ヶ岳戦で兄と共に敵方の柴田勝家に通じたために領地を没収されてしまう。この時景祐は窪江城を追われたものとみられ、これを境に城主がいなくなった窪江城は廃城の運命たどる。

この城もその後一度だけ再建の機会が訪れる。
それは

関ヶ原合戦に勝った家康が翌年膳所城を築かせた時だ。窪江城には堀がなかった。周辺を流れる草川、沢の川、二淀川、神迎川などを巧みに利用し堀の役目を持たせると共に、人、馬の歩行を困難にするなどの工夫したようで、城の外側に当たる瀬田川沿いには展望台、旧東海道沿いには見張などの古い地名が残っている。40 年以上窪江城の歴史を調べておられた、古老内田彦衛さんから頂いた語り継ぐ話です。 窪江城址

明治 22 年東海道線開通で城跡の南端が削られ、さらに昭和 13 年に東レが城跡を含む線路北側に瀬田工場を建設した。東レは佐々木家につながる三井財閥の経営だったこともあり、城跡はそっくり保存。崩れた石垣を補修する

など整備され、城内には二つの神社を建立、桜やさつきなど植え、広場で野外パーティーが開かれるなど従業員の憩いの場になっています。



春の瀬田唐橋

[会員投稿]

「膳所の浜」から「レイ大びわこ環境学科」へ

釜淵 佳明（35期 びわ環・膳所）

膳所の旧東海道（現木下町）沿いにある和田神社から北に50mほど、旧東海道は左に折れて西に向かう。そこを左折せずまっすぐ琵琶湖に向かうと昭和20年代には「遠浅の浜」にあった。そこが子供の頃の夏の遊び場だった。あたりの浜は石ころだらけであったが、なぜかそこだけは砂地で、10メートルほど沖合までかろうじて立って歩ける深さだった。夏はそこで水遊びをし、水に入れない季節は魚釣りをして遊んだ。釣り針にミミズを付けて垂らすと、面白いほどボテ（ジャコ）が釣れた。ザリガニもたくさんいた。捕まえるだけでは飽き足らず、一度食べてみようかと七輪と木炭を持って行って見たが…所詮、子供の遊びだった。一方、砂地でとれたシジミは美味で、捕って帰ると母も喜んでくれた。古希を過ぎた今も真夏に草むらで草いきれを感じたり、キリギリスの鳴き声を聞くと、幼い頃の膳所の浜を思い出す。

レイカディア大学の存在を知り、園芸学科を志望したものの、倍率が厳しいとの情報にどうしようかと迷った。『来年再挑戦するか、他の学科に変更するか』であったが、新しく「びわこ環境学科」ができると知って「待てよ、それもいいかも」と進路を変えた。そこに幼い頃の「浜」の記憶と、教員時代びわ湖に浮かぶ学習船「うみのこ」に乗船し、子どもたちの環境学習に携わっていた経験をしていたことが影響したと思う。

そんな淡く、甘い記憶も入学後講義が始まると、すぐに吹っ飛んでしまった。琵琶湖について、環境について、詳しく、時に難しい講義が続くとやっぱり止めてた方がよかった、もう一年待った方がよかったと思うことしきりであった。同時に、「園芸学科は何をしてるんだろう、どこで学んでいるのだろう」と、気になって仕方がなかった。

けれど、体力測定が実施され、歌舞伎教室、阿闍梨さん講話、湖西や湖南への実地研修、そして8月の学園祭などを経験していくうちに、園芸学科への思いは薄らいで「びわこ環境学科生」になっていった。

レイ大を卒業後、35期フォトウォーククラブに入ったり、びわこ環境学科の仲間と「35期びわ環」を結成し、行動を共にしてきている。古寺・史跡の見学はもちろん、さくらを見に行き、工場見学し、酒を飲み……良き仲間たちと思えるようになった今、レイ大に入ってよかった、びわこ環境学科生でよかったと思う。前職も、年齢も、性別も、過去のキャリアも全く気にせず付き合える仲間は、ひょっとして子供時代、あの膳所の浜でいっしょに遊んだ近所の子らの再来ではないかと思える。そんな「遊べる仲間」といっしょにいられる場を与えてくれたレイカディア大学、ありがとう。

戦争のないことを願って

堀口 唯子（26 期 生活・日吉）

今年は終戦から 71 年となりました。空襲や原爆投下、沖縄戦で亡くなった民間人 80 万人を含む 310 万人という多くの犠牲者を追悼する各地の式典が、新聞やテレビで報道されています。今年の全国戦没者追悼式では、戦没者のひ孫世代に当たる 18 歳未満の遺族 14 人が、初めて「献花補助者」を担ったそうです。戦争体験者の高齢化が進む中、次の世代への継承が課題となっています。

そんなある時、児童文学作家の今関信子先生から嬉しいお手紙を頂きました。それは平和カフェ in 高島と称して、新旭公民館で平和について語り合う集いが開催されるとのことでした。準備をされた役員の方々は「何ヶ月先とか気楽に思っている場合ではない、世の中が悪くなっているこの頃やから、早く開催しないと駄目だ」と危機感を感じ、開催に向けて一致団結されたそうです。その集いには今関先生はじめ女性史研究家の早田りつ子先生、絵本作家の市居みか先生がゲストで参加して下さいました。参加された皆さんは平和に対して関心のある方ばかりで、熱心に先生のお話を聞いておられ、密度の濃い集まりになりました。催しの最後には、ゲストの先生方と参加した人達が自己紹介を兼ねて討論する時間があり、戦争を体験した人達は恐ろしい体験話を話し合ったりして、会場は 70 年前にタイムスリップしたようでした。私も順番が来て戦争体験を少し話しました。私は小学校一年生の時でしたが子供心なりに戦争の恐ろしさを覚えています。B29 の飛行機の音がしたら防空壕に入ったこと、食べる物が無くなりご飯の代わりに農家の方が下さったさつまいもやじゃがいもとかを食べたり、たまに温かいご飯が出て小麦が多く入っていておかずもなく、ソースとか醤油をかけて食べたりしたことも話しました。我が家は幸いにも農家の方にお野菜を頂いたり大変助かっていました。戦後、白いご飯で大根飯を食べて、それはそれは美味しかったことを覚えています。

また関係役員のご尽力で、県内各地の 24 名の方から戦争体験談の聞き取り調査をされ、戦後 70 周年記念誌として「今伝えたい平和への想い、体験者からのメッセージ」という本にまとめられました。集い当日までに出来上がり、ゲストの先生方も大変喜んでおられました。機会がありましたらご覧いただきたいと思います。

全国戦没者追悼式が終わり、戦争と平和について、この原稿を書こうと思っていた矢先に、ジャーナリストむのたけじさんが 101 歳で逝去されたことを伝えるニュースを聞き、驚きとともにまた一人、平和を訴える人が去ったことの無念さを感じました。あきた文学資料館名誉館長で、むのさんと親交があった北条常久さんは「戦争の足音が再び聞こえる中、やり残したことがあるという思いで逝かれたでしょう」と惜しんでおられます。

病気を乗り越え、100 歳を超えても戦争の悲惨さと平和の意義を伝えておられたむのさんのご冥福をお祈りするとともに、戦争を体験した私達が、戦争を知らない人達に平和であり続けることの意味を語り、継承していくことが任務だと思っています。

フィリピン戦跡慰霊の旅・感想文

鵜飼 敏彦（27 期 文芸・平野）

平成 28 年 11 月、滋賀県遺族会の私は今春両陛下の巡拝慰霊に行かれたフィリピンに知事・県会議長と共に大東亜戦争で散華された防人の英霊の追悼慰霊に参加致しました。

俳句 知事と共に追悼慰霊や神の旅

洋の東西を問わず、古代より人類はギリシャのオリンピック祭典の期間を除き、長い間戦争・侵略略奪・凄惨な殺戮を繰り返しての歴史でした。

大東亜戦争の末期、海軍と陸軍の統制が取れず、軍部は米軍との本土決戦を少しでも遅らせる為、不条理な徴兵を行い、糧秣については現地調達を命じてルソン島の密林に一家の大黒柱である主人を送りこみました。故郷に両親妻子を残しての日本軍の飢餓とマラリアの病魔に加え、抗日ゲリラの襲撃の実情は、長年フィリピンに留まり遺族会現地ガイドで、ご苦労されている「秀子さん」より知らされた当時の実情は、身の毛もよ立つ凄惨な生地獄で散華された英霊の無念さを偲ぶとき、遺族会の私たちは平和な日本に帰国した後も思い出すたびに涙・涙です。



近年、アメリカを始め欧州のリーダー選挙があり、民俗主義・保護貿易主義の右翼政治家の台頭が予想され、世界大戦・大東亜戦争の勃発の頃の環境に移りつつある今日、私達は「幾多の営霊のご遺徳と平和の大切さ」を子々孫々に語り継ぎ、戦後 70 年に亘る日本の礎は我身を犠牲に散華された英霊のご遺徳を重ねて子孫に引継ぐ責任と覚悟を噛み締め追悼慰霊の旅の感想文と致します。



会員文芸

俳句

京都嵐山吟行 (二九期 文芸)

瀬田 大坪石山

秋化粧喧噪よそに嵐山

行く秋をひと嵯峨野に過ぎしけり

比叡 岡田一也

南天の実のことごとく光る庵

嵯峨野路や去年と同じ竹の春

瀬田 勝田幸川

竹林に響く異国語秋深し

読み合ひて向ふ落柿舎薄紅葉

石山 久保貞邦

ニ－ハオの声に色づく薄紅葉

嵐山まだ薄もみじ土産買ふ

(二三期・文芸 山下克己)

蒼茫の湖めぐらせり蕎麦の花

熱田津に船出を偲ぶ瀬戸の秋

ウルマンの青春謳歌雲の峰

名将の悲憤に果つる草紅葉

小春日や三桎溶かし夢漉きぬ
みつまた

川柳

(二二期・生活 梅景宏)

ヨシ刈りで 琵琶湖のめぐみ 授けられ

曳山の 仲間と仰ぐ 秋の空

身も心 すつきり士隊 ビラ剥がし

囲碁将棋 大先輩に 教えられ

和やかに 赤青ディスク 床に舞う

受賞

鵜飼敏彦様 (二七期・文芸・平野) が大津市民

俳句大会で大津市教育長賞を受賞されました。

[会員動向]

会員数 大津支部会員数 (12月16日現在) 254名

訃報 石山・南郷地区の井上 栄 様が10月23日に逝去されました。
昭和7年2月18日生まれで満84歳でした。

ここに謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

大津支部事務局からのお知らせ

- 1月の執行役員会及び役員会の開催はありません
- 2月 2日(木) 9時30分～12時 執行役員会 生涯学習センター
- 2月24日(金) 9時30分～12時 役員会 生涯学習センター
- 3月 3日(金) 9時30分～12時 執行役員会 生涯学習センター
- 3月29日(水) 9時30分～12時 役員会 生涯学習センター

広報部からのお知らせ

機関誌「かけはし」は年4回発行しており、次回は平成29年3月下旬の発行の予定です。原稿締め切りは2月25日厳守で投稿の要領は従来通りです。次号には会員投稿は掲載しません。内容は支部全体の活動、各部の活動報告と活動予定、各地域の活動を中心に編集します。投稿要領はパソコンで作成される場合は、用紙はA4、本文の字体や大きさは、MS明朝体・12ポイント、表題の文字の大きさは14～16ポイントと指定しています。

原稿の字数は1,200文字以内を厳守下さい。

表題の下部に、氏名(期生、学科・地区名)をご記入下さい。また、写真などがあれば是非、添付して下さい。写真の返却を希望される方は、その旨を写真裏面にご記入下さい。

会員投稿は6月発行と12月発行の年2回の掲載としています。

《原稿送付先》 自筆・ワープロ打ち原稿は郵送またはFAXで

〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目15番15号

大塚 庸行 宛 TEL・FAX 077-525-7338

PCメールは 佐瀬 章男 宛 sase@opal.plala.or.jp

西澤 勝 宛 benten-nishi@ares.eonet.ne.jp

[編集後記]

今年も残り少なくなり、何かと気ぜわしい今日この頃です。我々レイカ大津は新支部長でスタートし、各種行事を活発に消化し、特に社会福祉協議会の要請による「神戸ひまわり号 in 大津」への有志によるボランティア活動にも参加し、新規に書道同好会も発足しました。

支部長方針どおり、次年度も積極的に行事へ参画して、明るく活発な支部を目指したいものです。

編集委員

岩田 和彦(志賀) 西澤 勝(唐崎) 福井 かおる(唐崎) 和田 紀久子(日吉) 大塚 庸行(打出)
住若 富子(打出) 釜淵 佳明(膳所) 脇田 進(石山・南郷) 河嶋 文雄(石山・南郷)
松岡 克実(北大路) 佐瀬 章男(瀬田北) 中村 健一郎(瀬田・月輪) 栗田 昇(瀬田・月輪)

レイカディア大学同窓会 大津支部会報 55号(平成28年12月21日発行)

発行責任者 大津支部長 岩田 和彦

編集責任者 広報部会長 大塚 庸行